

研究協力をお願い

練馬光が丘病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

院内心肺停止の予後予測因子に関する多施設後ろ向き観察研究

1. 研究の対象および研究対象期間

2016年1月1日から2022年12月31日までの間に練馬光が丘病院に入院した患者様で65歳以上で入院中に心肺停止が生じ蘇生行為をうけた患者様

2. 研究目的・方法

高齢者の病棟管理において入院中発症の心肺停止は稀に起きうる事象で、死亡や神経損傷ふくめ重篤な転帰が起こりうるため、蘇生に関する患者の意向や「コードステータス」についての議論が重要である。コードステータスを話し合うにあたり、生存確率や脳神経学的に良い状態での退院の確率がどれくらいか、というのは重要な情報であり、近年海外を中心にその予測式が開発され検証が行われている。しかしながら、新規に提唱されたばかりでアジアでの検証や多施設検証はされていない状況である。

高齢者の急性期医療においてコードステータスの確認は重要な側面の1つであり、本邦における予後予測因子の解明は急務であると考えられる。そのため、院内で心肺停止が生じてしまった場合の予後を事前に予測できる因子の検証を調査するために、練馬光が丘病院をふくむ多施設において後ろ向き観察研究を行いたいと考えています。

研究期間

練馬光が丘病院の倫理委員会にて審査後、委員会から発行される結果通知書の承認日より、実施機関の長の研究実施許可を得てから～2024年12月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

入院時病名、患者情報(年齢、性別、基礎疾患、施設入所)、入院時と退院時の身体機能、入院時と退院時の脳神経学的な状態、外傷歴、各種疾患や状態の有無(脳卒中、転移性悪性腫瘍や血液悪性腫瘍、菌血症、入院疾患、肝不全、低血圧や低灌流、腎不全、呼吸不全、肺炎)、心肺停止時の初期リズム、蘇生に要した時間

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：練馬光が丘病院 総合救急診療科 総合診療部門

氏名：原田 拓

住所：東京都練馬光が丘 2-5-1

電話番号：03-3979-3611

研究責任者：練馬光が丘病院 総合救急診療科 総合診療部門 原田 拓